

私立学校(中学校・高等学校)

調査回答学校数:80校

1 平成21年度の学校図書館の利用状況等について

1-(1) 貸出冊数について

把握している	88%
把握していない	10%
無回答	0%
無効回答	3%

1-(2) 課業期間の開館日等

① 開館日(複数回答可)

平日毎日	99%
平日(毎日以外)	1%
土曜日	59%
日曜日	1%
無回答	0%
無効回答	3%

①の設問で平日(毎日以外)と回答した学校が開館している日数

記述なし

②開館時間(複数回答可)

全日	68%
始業前	6%
昼休み	36%
休み時間	9%
放課後	38%
その他	13%
無回答	0%
無効回答	1%

★ その他(抜粋)

・8時～13時
・8時～14時

③開館日の利用人数(複数回答可)

0～19人	33%
20～39人	40%
40～59人	26%
60～79人	13%
80～99人	6%
100人以上	36%
無回答	0%
無効回答	11%

1-(3) 長期休業期間の開館日等

① 開館日(複数回答可)

平日毎日	35%
平日(毎日以外)	8%
土曜日	11%
日曜日	0%
その他	41%
無回答	0%
無効回答	18%

★ その他(抜粋)

・補習期間
・夏期講習日
・生徒登校日

①の設問で平日(毎日以外)と回答した学校が開館している日数

1日	0校
2日	0校
3日	0校
4日	1校
その他	5校

②開館時間(複数回答可)

全日	66%
午前	13%
午後	1%
その他	14%
無回答	11%
無効回答	4%

★ その他(抜粋)

・9時～14時

③開館日の利用人数(複数回答可)

0～19人	48%
20～39人	16%
40～59人	15%
60～79人	3%
80～99人	6%
100人以上	0%
無回答	10%
無効回答	4%

1-(4)
貸出方法

コンピュータ処理	55%
図書カード利用	28%
コンピュータ処理と図書カード利用を併用	10%
★その他	5%
無回答	0%
無効回答	3%

★ その他(抜粋)

・貸出ノートに記入

1-(5)
学校図書館の
コンピュータについて

ある	93%
ない	6%
無回答	1%
無効回答	0%

コンピュータの保有台数

1台	27%
2台	11%
3台	11%
4台	7%
5~10台	21%
11台以上	15%
その他	7%

コンピュータの使用方法
(複数回答可)

本の検索(自校)	82%
本の予約(自校)	46%
本の貸出・返却(自校)	70%
本の検索(他の図書館等)	47%
ホームページ等の閲覧	66%
CD-ROM等の閲覧	32%
メールの受発信	32%
★その他	18%
無回答	0%
無効回答	1%

★ その他(抜粋)

・蔵書管理(図書台帳登録等)
・進路情報の検索

1-(6)
選書の方法について
①過去3年間の購入冊数

H19年度	72664
H19年度平均	908.3
H20年度	75116
H20年度平均	939.0
H21年度	75399
H21年度平均	942.5

②図書選定の際参考とするもの
(3つまで回答可)

児童生徒のリクエスト	79%
教職員のリクエスト	65%
書評誌	24%
新聞書評・広告	29%
出版店・取次店の目録	38%
インターネット上の情報	23%
公立図書館の選定リスト	3%
★その他	8%
無回答	0%
無効回答	9%

★ その他(抜粋)

・本屋に行き実際に
見てみる。
・学校図書館図書
整備協会選定図書

③選定方法

担当教職員	56%
選定委員会等(教職員のみ)	21%
選定委員会等(教職員と児童生徒)	5%
図書委員会等(児童生徒のみ)	1%
★その他	9%
無回答	0%
無効回答	8%

★ その他(抜粋)

・司書が選定し、担当
教職員が承認
・学校図書館司書が
単独で選定

1-(7)
学校図書館の利用状況について
①3年前との比較

進んでいる	46%
進んでいない	8%
変わらない	44%
無回答	0%
無効回答	3%

②進んでいる点(複数回答可)

貸出冊数	70%
利用人数	78%
授業での利用	30%
★その他	11%
無回答	0%
無効回答	0%

★ その他(抜粋)

・コンピュータ化の完成

③学校図書館が活性化と思われる改善方策について(2つまで回答可)

選書の改善	53%
施設の魅力の向上	40%
啓発の推進	36%
読書計画の立案及び実施	39%
公立図書館との連携	1%
ボランティアとの連携	0%
★その他	6%
無回答	0%
無効回答	6%

★ その他(抜粋)

- ・専任司書と司書教諭の配置
- ・図書館活動と教科との連携

2 学校図書館の担当職員について

2-1) 教諭以外の担当職員について

いる	81%
いない	15%
無回答	4%
無効回答	0%

2-2) どのような職員か

学校図書館司書	71%
図書整理員(有償)	11%
★その他	15%
無効回答	3%

★ その他(抜粋)

- ・事務職員

2-3) 職員の勤務日数等

日数	
1日	0%
2日	0%
3日	9%
4日	8%
5日	32%
6日	48%
その他回答	3%

1日の時間数

2時間未満	0%
2時間以上4時間未満	2%
4時間以上6時間未満	12%
6時間以上7時間未満	5%
7時間以上8時間以下	78%
その他回答	3%

2-4) 職員の仕事内容(複数回答可)

環境整備	97%
貸出・返却	97%
受入及び配備	94%
購入する本の選択	82%
本の展示	84%
図書館便りの発行	79%
読み聞かせ	4%
ブックトーク	7%
図書館だよりの発行	69%
図書委員会の指導	35%
図書館等との連絡・調整	24%
★その他	10%
無効回答	1%

★ その他(抜粋)

- ・図書部員の指導

3 公立図書館との連携について

3-1) 連携内容(複数回答可)

団体貸出	6%
図書配送システム	1%
移動図書館	0%
担当者連絡会	1%
連携学習会	1%
司書の派遣	0%
図書館見学	0%
★その他	5%
全く行っていない	81%
無回答	0%
無効回答	5%

★ その他(抜粋)

- ・校内オリエンテーションでの説明

私立学校(中学校・高等学校)

●公立図書館との連携内容ごとの年間実施回数

団体貸出

1回	0校
2回	1校
3回	0校
4回か5回	0校
6回以上10回以下	2校
11回以上20回以下	0校
21回以上50回以下	0校
51回以上	0校

図書配送システム

1回	0校
2回	0校
3回	0校
4回か5回	0校
6回以上10回以下	1校
11回以上20回以下	0校
21回以上50回以下	0校
51回以上	0校

担当者連絡会

1回	1校
2回	0校
3回	0校
4回か5回	0校
6回以上10回以下	0校
11回以上20回以下	0校
21回以上50回以下	0校
51回以上	0校

連携学習会

1回	1校
2回	0校
3回	0校
4回か5回	0校
6回以上10回以下	0校
11回以上20回以下	0校
21回以上50回以下	0校
51回以上	0校

3-(2)

今後望む連携内容(3つまで回答可)

団体貸出	25%
図書配送システム	19%
移動図書館	1%
担当者連絡会	10%
連携学習会	28%
司書の派遣	15%
図書館見学	19%
★その他	9%
無回答	0%
無効回答	34%

★

★ その他(抜粋)
記述なし

4 学校での読書活動について

4-(1) 授業で学校図書館を活用する

1クラスあたりの時間数(月平均)

0~3h	91%
4h~8h	4%
9h~12h	1%
12h以上	0%
無回答	4%
無効回答	0%

4-(2)

学校図書館を活用した授業の年間計画について

作成している	14%
作成していない	85%
無回答	0%
無効回答	1%

5 読書活動に関わるボランティアについて

5-(1)

教室等で「絵本の読み聞かせ」等を行うボランティアについて

いる	1%
いない	99%
無回答	0%
無効回答	0%

ボランティアはどのような人か(複数回答可)

保護者等PTAの方々	0%
地域の読書グループ	0%
連携先の大学生	0%
★その他	100%
無回答	0%
無効回答	0%

★

★ その他(抜粋)
記述なし

5-(2)

学校図書館の運営に協力するボランティアについて

いる	9%
いない	88%
無回答	4%
無効回答	0%

①ボランティアはどのような人が(複数回答可)

保護者等PTAの方々	29%
地域の読書グループ	0%
連携先の大学生	0%
★ その他	71%
無回答	0%
無効回答	0%

★ その他(抜粋)

- ・ボランティアセンターからの派遣

②活動内容

図書館の環境整備	57%
貸出・返却整備	43%
本の展示	29%
本の受入と配備	14%
読書相談の対応	14%
読み聞かせ	14%
ブックトーク	0%
図書館便りの発行	14%
★ その他	29%
無回答	0%
無効回答	0%

★ その他(抜粋)
記述なし

自由記述(抜粋)

2-(5)学校図書館担当職員の配置による効果と課題

- ・始業前から放課後まで、いつでも開館。休み時間にバタバタと走って本を立ち読みに来ます。図書館を書庫にしないためには専任が必要。本を通して心のケアもできる。本にまったく興味を示さない多くの生徒、忙しい先生にいかに関書館を利用してもらうかが課題である。
- ・専任者が常駐していることで、生徒に安心感を与えているのではないと思われる。図書館が単に本を貸し出すだけの場所ではなく、癒しの場ともなっている。課題としては、司書教諭や、教科との連携を密にすることで、更に有効活用していけるのではないと思う。
- ・担当職員がいることで、いつでも利用できる。求める本を渡せる。教育・授業を資料提供という面からサポートできる。
- ・各教科と綿密な読書指導計画ができてない。
- ・職員が図書館に常駐することで利用が増えた。授業と授業の間の10分間休みにも本の貸出・返却ができる。各教科の先生方と連携し、授業等で図書館を活用してもらうことが課題。
- ・常時開館し、利用者(生徒・教職員)に対応。課題は各教科との連携および不読者(利用)対策。
- ・選書を図書館職員だけがするのではなく、各教科等にも広げ、ひいては各教科等との連携による読書指導計画などの実践をどう構築していくのか。

3-(3)公立図書館との連携による効果と連携を進めるための課題

- ・授業で使用する資料が収集しやすくなった。現在は団体貸出のみの連携なので、他にどんな連携ができるのか知ることが課題。
- ・図書の貸借は、管理ソフトが異なることによる混乱が心配だが、複数所蔵している図書の有効活用や、選書の参考になる支援は、学校図書館が一定のレベルを保つために必要だと思われる。
- ・読みたい本がないと、本を読む意欲がなくなってしまうので、学校図書館にない本を借りられるのが良いし、様々な良書を紹介してもらえると良い。

4-(2) 学校図書館を活用した授業の年間計画を作成していない理由

- ・授業に関しては全て担当教科の教諭が計画を立てているが図書館利用についても判断に個人が委ねられているから。
- ・教科科目ごとのシラバスには、それぞれで記載しているが、トータルとして図書館では把握していない(現在利用が少なく重なって使用できないという事態になっていない)。
- ・図書館には主に自習室としての機能が求められているから。

4-(3) 「朝の読書」など一斉読書以外の特色ある取組み及びその効果

- ・「読書会」を府立高校と合同で20年程続けている。小人数なので大きな変化はないが、参加した生徒は読書に非常に興味をもち、図書館利用回数も多くなる。「読書感想文コンクール」を全校で行なうことで読書の機会を与える。
- ・「図書館通信」を定期的に配布。図書館独自のホームページをメッセージ性のあるものにし、新刊書の紹介も兼ねる。
- ・中1、中2対象に「読書合宿」を2泊3日で実施し、本校寮でブックトークや講演会などを行う。本へ興味が増し、貸出冊数が増加している。
- ・生徒とともに本屋に直接行き、図書室の本を選んでくるという「購入ツアー」という行事を年2回行っています。
- ・年一度の読書奨励賞の授与。(4月～10月に25冊以上読み、感想文を提出した生徒におくる、賞状と図書カード)。励みになるので、25冊以上めざして読む生徒が多い。
- ・「今月のいちおし」や「特選別おすすめ本」等を展示し、図書新聞等にて新着図書案内等広報活動を広げることに取り組んでいる。その結果、それらの書籍に興味を示す生徒が増えている。

5-(3) 読書活動に関わるボランティアがいることの効果と連携を進めるうえでの課題

- ・人により仕事の正確さなど、バラツキが出る。毎回仕事が確認できるようにする。段取りなどもそのつど分かりやすく説明することが大切である。
- ・ブックトーク・読書相談などの効果があると思う。しかし、ボランティアさんに頼りきりになるのではなく、我々スタッフの資質・能力の向上も同時に進めて行く必要があると思う。
- ・卒業後の進路として、保育士や幼稚園教諭をめざしている生徒達にとっては、良い刺激にもなり、キャリア教育にもつながって行くのではと思う。

6 お尋ねした項目以外に特色ある取組み及びその効果

- ・図書委員による店頭選書を実施。年2回、図書委員の生徒(希望者20名程度)が書店で選書を行う。選ばれた本は特設コーナーに配架する。このコーナーをみるために来館する生徒が多く、利用者増につながった。
- ・生徒にオススメの本のPOPを書かせている。(図書委員は強制、他の生徒は任意)書いてもらったPOPを図書館内に貼付けていると、それを見ながら会話している生徒が多い。興味を持たせる効果はあるが、それを読むところまでいかない生徒が多いので読んでもらうにはどうすればよいかもう少し取組みをつめる必要がある。

7 学校図書館の運営について、困っていることや悩み

- ・司書教諭が図書室運営に携われないので授業との連携がうまくいかない。教員との係わりが少ない。
- ・長期的な蔵書構成として自分の選書は大丈夫か、不安である。
- ・除籍(廃棄基準など)についてのルールが定まっていない。
- ・生徒の読みたい本以外に生徒に読ませたい本もあるが、それを如何にして読むようにもっていくか。またどのような本が読ませたい本にふさわしいか。司書さんは日々の運営で忙しく、教員は授業や担任業務とかけもちでゆっくり考えたり調べたりできない。学校全体で考えるところにもっていく時間が欲しい